

牡蠣殻 フェイスパック ハンドクリーム

Made by 相産 × RU研究所



兵庫県立相生産業高等学校 商業科商品開発チーム

1 相生と相産

相生市は兵庫県の南西に位置し、瀬戸内海に面しています。そのおかげで海産物が美味しく、特に牡蠣が有名です。

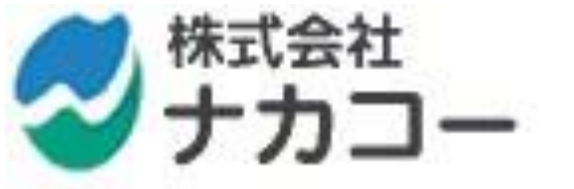
相生産業高等学校は、3つの専門学科と定時制を併設した学校で、創立75年を数えます。

そして、相生産業高校はペーロン船を使用した海上運動会を実施するなど、地域に根差した学校です。



4 協力くださった企業

相生漁協・株式会社ナカコー



試作品作成には、大量の牡蠣殻が必要となるため相生漁協のお世話になりました。また牡蠣殻の粉碎は高砂市の(株)ナカコーにお世話になりました。



相生漁業協同組合

ナカコーとの打ち合わせ

(有)ルウ研究所



化粧品の製造販売は、認可の取れた企業でなければならぬため、学校とコラボして製品を作っていた企業を探し、鳥取県のルウ研究所にお願いすることにしました。



ルウ研究所との打ち合わせ

2 きっかけとこれまでの取り組み

相生市の特産品である牡蠣の廃棄される殻をどうにかして再利用できないかと考えました。誰もが使用でき、相生を活性化させるような商品作りを試みました。



集積された牡蠣殻

牡蠣殻粉碎

牡蠣殻チョーク試作

牡蠣殻せっけん試作

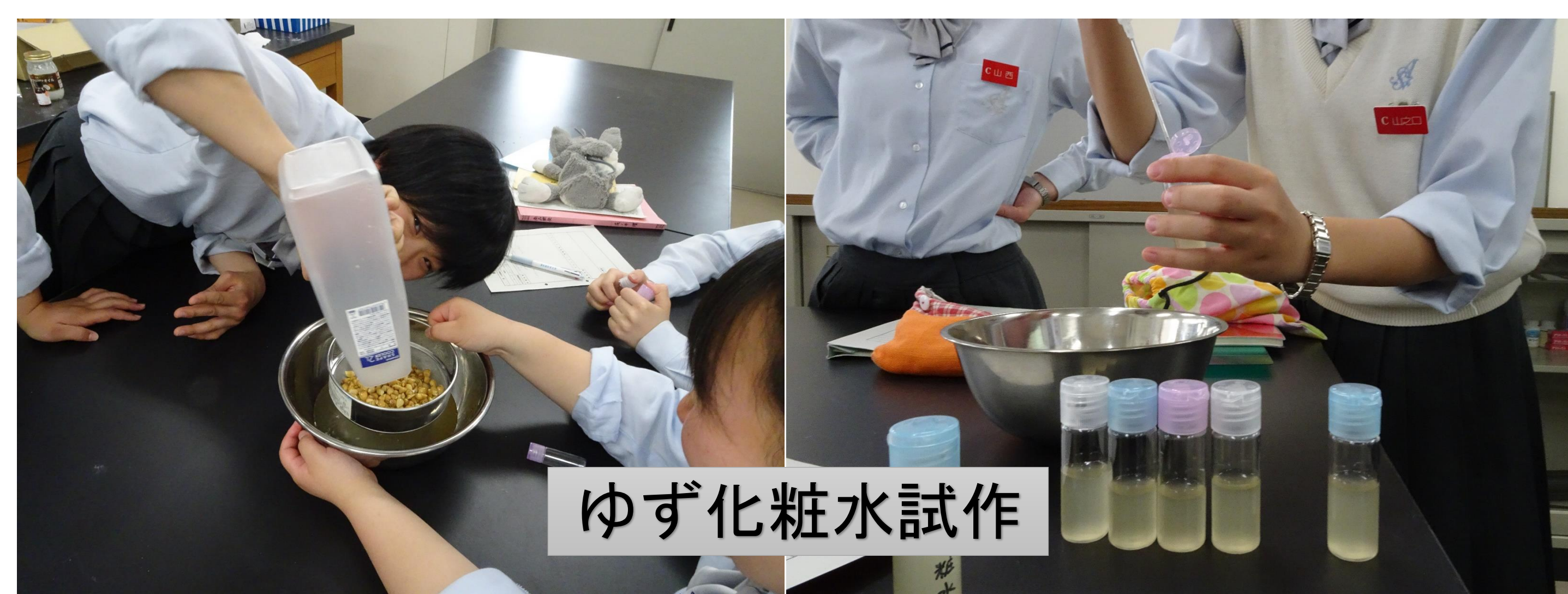
3 試作品作成

今年度はハンドクリームとフェイスパックの商品化に取り組みました。まずは自分達で試作品を作成し、市販の商品と比較した課題を協力企業と話し合いました。



フェイスパック試作

ハンドクリーム試作



ゆず化粧水試作

5 商品紹介

『アイさんうるおいパック』
『アイさん恵みクリーム』



この商品は天然由来の、原材料にとことんこだわった商品です。肌トラブルを抱えた人も安心して使える商品になりました。



販売実習での様子

6 販売実習とその後の流れ

完成した商品を相産商業科の販売実習にて販売し、新聞にもとりあげていただきました。

商品開発の計画から販売までを多くの企業の協力を得ながら、皆で協力し成し遂げた経験は、将来に向け大きな自信となりました。



読売新聞9月22日(日)